

2022 年度国際言語文化学会第 10 回大会 プログラム

主催：京都外国語大学国際言語文化学会

共催：京都外国語大学大学院

開催日：2023 年 1 月 21 日（土）

受付：12：40～ 161 教室前

13：00-13：20 総会 161 教室

開会のご挨拶

事業報告

監査報告

13：20-13：30 休憩・移動

13：30-15：30 研究報告 161 教室 ・ 国際貢献学部シンポジウム 162 教室

15：30 閉会

**研究報告 161 教室**

時間	登壇者・タイトル(発表 20 分、質疑応答 10 分)
13:30- 14:00	[1-1] 森口 稔・坂口 昌子 非母語話者向け日日辞典の定義語彙と執筆マニュアルの作成
14:00- 14:30	[1-2] 横山 卓哉・伊藤 秋仁・中谷 めぐみ メキシコ・アカコヤグアにおける国際協力の試み
14:30- 15:00	[1-3] 布施 将夫 1860 年代の日米間における武器移転をめぐって—南北戦争から戊辰戦争へ—
15:00- 15:30	[1-4] 國司 航佑 ジャコモ・レオパルディの韻律革命—詩形カンツォーネの歴史とレオパルディの初期詩群—

※ 開始時刻は、前後する場合があります。

**国際貢献学部シンポジウム 162 教室**

13:30- 15:30	[2-1] Jay Klaphake・Angus McGregor・Eric Hawkinson Symposium on Digital Transformation in the Faculty of Global Engagement
-----------------	---

<研究発表要旨>

**[1-1] 非母語話者向け日日辞典の定義語彙と執筆マニュアルの作成**

森口稔・坂口昌子

辞書は外国語教育および外国語学習における必須アイテムの一つである。しかしながら、日本語教育においては、十分な見出し項目数を持つ、非母語話者向けの汎用的な日日辞典は、まだ出版されていない。また、英語の辞書では、Oxford Advanced Learner's Dictionary などにおいて、語義が限られた数の語彙で書かれており、これを定義語彙と呼ぶが、日本語に関しては、定義語彙を使用した日日辞典は、見当たらない。

こういった現状に鑑み、現在、定義語彙を定めた、非母語話者向け日日辞典のプロトタイプを作成中である。本発表では、この日日辞典 (Dictionary of Contemporary Japanese for Advanced Learners: DCJAL) の概略を述べた後、定義語彙の作成方法と、定義語彙を使った執筆のためのマニュアルについて紹介する。

なお、執筆マニュアルの有効性を見るため、日本語教育を専攻する学生に語義記述を書く試みをしてもらった。その結果についても概略を述べる。

**[1-2] メキシコ・アカコヤグアにおける国際協力の試み**

横山卓哉・伊藤秋仁・中谷めぐみ

これまでの本共同研究(「姉妹都市交流における行政と市民・大学の協働の試み」)では主に有効な姉妹都市交流の在り方について研究を行ってきた。行政や市民、メキシコの JICA 事務所との対話の中で、メキシコ南部チアパス州のアカコヤグアにおける教育支援を行う意義について新たなコンセンサスが生じた。本共同研究では、そのコンセンサスを受けて、2022 年 8 月、9 月に中谷が現地視察調査を行い、12 月には研究会を開催し、真に求められる支援とは何かを探るべくパネルディスカッションを行った。本研究発表では、教育、研究に次ぐ「第三の使命」として大学の社会貢献を位置づけ、本学独自の社会貢献のあり方を提示する。本学の建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS」に基づき、本学の教職員が、各々の能力や個性を生かし、どのように社会貢献を進めるべきかについて、これまでの研究成果を発表すると同時に、本学の教職員が積極的に関与できるような方向性を提案する。

**[1-3] 1860 年代の日米間における武器移転をめぐって—南北戦争から戊辰戦争へ—**

布施将夫

本研究の目的は、幕末・維新期の日本における洋式銃の歴史をグローバルな観点から明らかにし、一国史に閉じがちな国民国家の歴史をグローバル・ヒストリーに接続することである。方法としては、日本人による先行研究だけでなく、海外の最新研究、なかでもドイツ人研究者の日本学研究の成果も参照し、当時の実態解明を試みた。内容と結果については次のとおりである。従来の研究では、当時の日本に多様な洋式銃が計何十万挺というほど莫大な数輸入されたことが判明している。たとえば、仏国製のミニエー銃何挺、英国製のエンフィールド銃何挺、米国製のスペンサー銃何挺、という具合である。ただ、その具体的なルートは未解明のままであった。しかし、ドイツの日本学研究によれば、具体的にどの商社がどの銃をどこへ輸入したかが、ある程度判明する。そこで本研究では、南北戦争で使用されたライフル銃が戊辰戦争期の日本に輸入された可能性を指摘し、一国の内戦でもグローバルな影響を受けていたことに注目したい。

**[1-4] ジャコモ・レオパルディの韻律革命—詩形カンツォーネの歴史とレオパルディの初期詩群—**  
國司航佑

イタリア語による抒情詩の韻律の歴史を大まかにまとめると以下のようになる。14 世紀、ペトラルカが、カンツォーネ、ソネットなどの五つの詩形を用いて詩集『カンツォニエーレ』を執筆する。16 世紀、人文主義者ベンボらが、ペトラルカの提示した諸形式をイタリア抒情詩のモデルとみなすと、その後は、様々な実験的な試みがなされたにもかかわらず、ペトラルカの詩形がイタリア詩の主流であり続けた。

こうしたイタリア抒情詩の歴史において、近代イタリアを代表する詩人ジャコモ・レオパルディは、一つの革新をもたらしたと言える。独自の詩形を駆使して、伝統的（ペトラルカ的）な詩形の束縛からイタリア語詩を解放したからである。そしてそれは、後世に大きな影響を与え、20 世紀に訪れる自由詩の誕生の呼び水となった。

本発表では、レオパルディが独自の詩形を開発する以前、そのキャリアの初期において、実はむしろ伝統的な詩形の代表ともいえるカンツォーネを多用していたことに注目した。そうした初期詩群の分析を通じて、彼がイタリア詩の伝統といかに対峙したかを検討したい。

<シンポジウム>

**[2-1] Symposium on Digital Transformation in the Faculty of Global Engagement**

**An Overview of the Digital Transformation of the Department of Global Studies**

Jay Klaphake

Abstract: This presentation will explore the ongoing efforts and future plans to implement digital transformation strategies in the Department of Global Studies, including adopting new educational technologies and embracing new forms of student engagement. It will also discuss the challenges associated with digital transformation - such as the need for adequate resources and expertise, curriculum reform, and some potential risks associated with data security and privacy as the department moves forward into an increasingly digital future.

**Facilitating Model United Nations Simulations in VR**

Angus McGregor

Abstract: A case study to investigate the conception, execution, and benefits of using highly tailored WebVR as a virtual learning environment (VLE) in Model United Nations (MUN) simulations.

**Designing Immersive Learning Labs for Higher Education**

Eric Hawkinson

Abstract: New laboratories and learning spaces are being created and put into place to help facilitate new technologies, such as virtual and augmented reality enhanced content. This presentation outlines various trends that can be used to develop a strategy for launching immersive learning labs in higher education. Starting with basic design ideas, moving on to some learning program recommendations, and finishing with a set of elements and instructions to let you establish an immersive learning lab.